

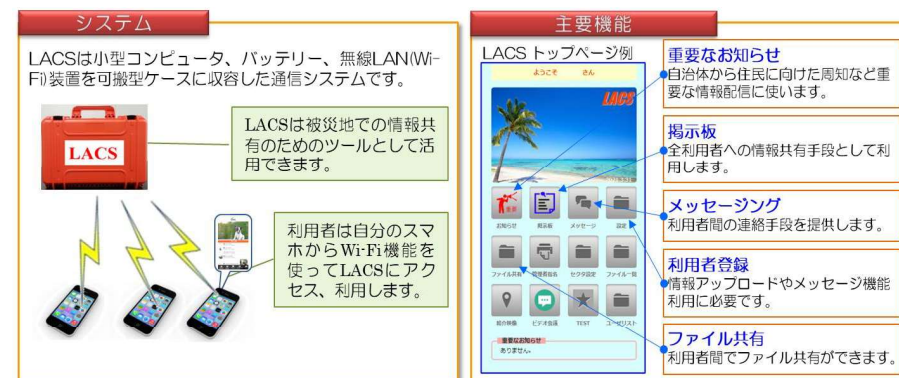
通信途絶環境下でも使える可搬型ローカルクラウド技術

概要

大規模災害時の電話もインターネットもない状況下で、近隣の人同士で連絡を取り合ったり情報を共有するための可搬型ローカル通信ツール:LACS (Locally Accessible Cloud System) を開発しています。LACSは大規模災害時だけでなく、イベント時などローカルな通信需要が急増する様々な場面での活用も期待されます。

特徴

- 地震や台風など大規模災害時には、停電や通信インフラの損壊のために、電話もインターネットも使えない状況が起こります。そのような環境下で、近隣の人たちとの情報共有や連絡手段として手軽に使えるシステムです。
- 大規模災害時に起こる通信途絶地域の避難所や災害対策本部などでの活用を想定しています。
- その活用域は、災害時用途だけでなく、通信需要が急増するイベント時や通信インフラが十分整備されていない途上国などにおいてローカル通信環境を補強するツールとしての活用も期待されています。



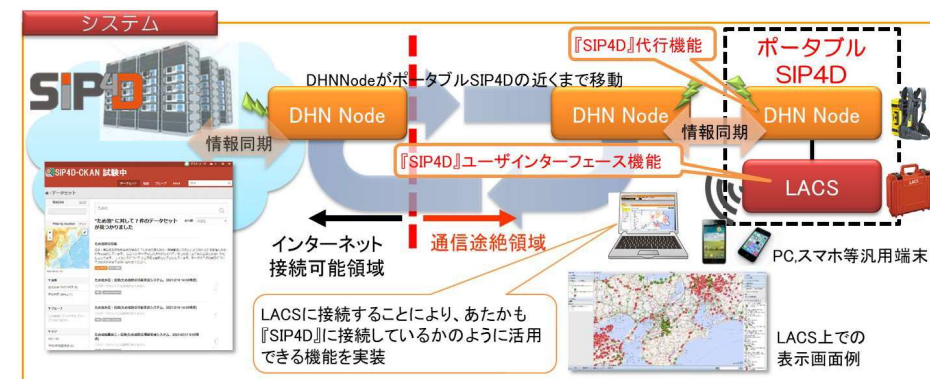
LACSのコンセプトと主要機能

今後の展開

- 現在、国が開発運用している災害情報共有システムSIP4Dを、LACS等を用いて通信途絶環境下でも利用可能にするポータブルSIP4Dの社会実装実験を進めており、国内で広く使われることを目指しています。

テーマ「Society5.0への貢献～サイバーとフィジカルの融合に向けて～」との関連

- Society 5.0で実現する社会は、IoT器機で全ての人とモノが繋がります。LACSは災害時でも多数のIoT器機が繋がりに、情報共有や連絡ができるため、Society5.0においても欠かせない技術です。



LACSを用いたポータブルSIP4Dの研究開発

連絡先: 波動工学研究所 担当 坂野寿和 E-Mail: wel-contact@atr.jp

本研究の一部は、情報通信研究機構、防災科学技術研究所と共同で実施しています。本研究開発の一部は、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「国家レジリエンス(防災・減災)の強化によって実施されています。